第 15 回　防災カフェを開催しました。

『気象災害とその予報』

ゲスト：　加藤　眞司　氏
(気象庁　彦根地方気象台　主任技術専門官)
日 時：2017 年 8 月 24 日（木）18：30～20：30
場 所：滋賀県危機管理センター１階　エントランスホール
ファシリテータ：金田　芳彦　氏
(気象庁　彦根地方気象台　次長)

ゲスト：加藤　眞司　さん

平成 29 年 7 月に九州北部で、8 月には台風 5 号で滋賀県でも大雨による災害があるなど、大小の気象災害が毎年のように発生しています。加藤さんは、実際に注意報や警報発表の判断をされています。そこで、まず、滋賀県で起きた大きな気象災害を天気図を通して眺め、その特徴のお話を聴き、次に気象庁からの情報と気象庁のホームページの見方についてのお話をうかがいました。その上で、私たちが防災気象情報をどのように受け取ればよいのかをみんなで考えました。

滋賀県は太平洋と日本海までの距離が約 90km と近く、その気象は夏には伊勢湾や大阪湾から、冬には若狭湾からの風の影響を受けます。

滋賀県は気象災害が少ないように見えますが、過去には大きな災害も起きています。平成 20 年 7 月の長浜水害は、秋雨前線が日本海に、九州の南東に高気圧、南西に台風があって、高気圧の暖かく湿った空気が台風に沿って前線に流れ込み、その活動が活発になっておこりました。長浜市では時間雨量 45 ㎜を記録しました。明治 29 年 9 月に彦根で一日に 597mm という豪雨があった時もよく似た配置でした。台風が離れていても、近くに前線があると台風が水を送るポンプの働きをして大雨になることがあります。

長浜水害の時の天気図

昭和 20 年から平成 28 年に県内で発生した気象災害のうち大雨によるものは 51%です。大雨による災害には土砂災害、浸水害、洪水害があり、注意報や警報などの情報は、それぞれの災害ごとに発表されます。

段階的に発表される防災気象情報

気象台からは、いろいろな情報が報道機関のほか気象庁のホームページを通じて流されます。気象台から発表される防災気象情報には、特別警報(発表基準は数十年に一度予想される場合で、命に関わる重大な災害の恐れが著しく大きいときに発表される最上位のもの)・警報・注意報、気象情報、土砂災害警戒情報、指定河川洪水予報、警報級の可能性、記録的短時間大雨情報(発表基準は大雨警報発表時に時間雨量 90mm 以上の雨を観測・解析した場合)、竜巻注意情報があります。土砂災害警戒情報は、気象台と県が連名で発表し、市町の長が避難勧告などを発令する際の判断の参考になります。指定河川洪水予報は、あらかじめ指定した河川に気象台と国または県は共同で発表します。○○川氾濫警戒情報というように発表されます。

竜巻は、県内では彦根市から近江八幡市にかけての平野で発生することが多いそうです。竜巻注意情報は、滋賀県の南部、北部を単位に発表され、有効時間は 1 時間で解除の発表はなく、注意が必要な場合は重ねて発表されます。高温注意情報は、翌日やその日に高温が予想され、熱中症が発生しやすい気象状況になることを伝え、注意を呼びかけるものです。

気象庁のホームページには様々な情報があります

気象庁のホームページを見ると、これらを含めて様々な情報を得ることができます。その中に[高解像度降水ナウキャスト]や[危険度分布]があります。[高解像度降水ナウキャスト]は、雨の状況を地図の上に表示するもので、拡大していくと市町の範囲まで見ることができます。[危険度分布]は高解像度降水ナウキャストと同じような画面で、土砂災害警戒判定メッシュ情報（色で危険度がわかる)、大

雨警報（浸水害）の危険度分布（浸水の危険度によって色分けされて表示される）、洪水警報の危険度分布（指定河川についての危険度が色分けされる）があります。これらのデータを合わせると現在の状況と 30 分後の状況予想が見られます。氾濫警戒情報は洪水警報に匹敵する情報なので自治体の発令する勧告、指示に留意し早めの避難を心がけるためにもこれらの情報を役立ててほしいということでした。

最近よく聞く気象用語に線状降水帯があります。次々に発達した積乱雲が列をなして数時間にわたりほぼ同じ場所にできる線状の強い雨域のことです。滋賀県でも瀬戸内からの西風と紀伊水道からの南西風が大阪湾付近で合流し淀川沿いに北上して大津市南部から甲賀市付近にかけて発生し、時間雨量 40 ㎜になることがあり、淀川チャネルと言われます。

最後に、加藤さんから、人間には自分だけは大丈夫だと期待する本能（正常性のバイアス）、危険でもみんなでいれば大丈夫と考えたり（集団同調性バイアス）や根拠がないのに場の雰囲気で危険を積極的に回避しようとしない（その場の空気というバイアス）があるということで、九州北部豪雨の際に被災者が「テレビで見ている世界に自分は入ったようだ」と話されているのを聞いて、逃げ遅れるなど非常に危険な状況であるというお話がありました。

質問時間の様子

参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：警報を発表するかどうか迷ったことがありますか？

答：迷うこともありますが、危ないと思ったら発表します。空振りをしてもいいけれど、見逃しは災害に結びつくのでしないように心がけています。

問：住民として知っておいてほしいことは？

答：自分の住んでいる所がどんな災害に危険なのかを知っておいてください。

加藤さん、金田さん、参加者のみなさん、ありがとうございました。

カフェ・プラス(フルート演奏)：石山高校の二人の生徒さんありがとうございました。